

## 上海経済を支える 旺盛な消費と優秀な人材



長阪九万太 (ながさか くまた)  
双日(上海)有限公司 総経理

近年、世界で最もダイナミックに<sup>へんぼう</sup>変貌している都市は上海ではないだろうか。リーマン・ショックから1年が経過した上海のビジネスの現場で活躍されている双日(上海)有限公司 長阪九万太総経理を訪ね、話を聞いた。

### 上海の景気は回復基調

2008年秋のリーマン・ショック以降、一端は落ち込んだ上海地区の経済は、ここにきて回復基調にあり、景気後退で工事が減り失職し、一端故郷に戻った労働者たちが再び上海に戻ってきている。2010年5月に開催される上海万博関連施設の建設も順調に進んでおり、一部では工事労働者の人手不足も起きている。また、一端建設が中断されていたビルの工事が再開されていることも事実だ。

### 輸出は落ち込んだが<sup>おうせい</sup>旺盛な消費

欧米の景気後退の影響で、確かに中国の輸出は大きく落ち込んだが、それも在庫調整が終わり、輸出は少しずつ回復基調にある。実際に、上海地区の製造業などに向けての原材料の輸入が動き出していることを実感している。以前は、中国の製造業向けの原材料の輸入先は日本だったが、今では様相がすっかり変わり、インドネシアなどのアジア諸国や中東などからの輸入が大幅に増えている。

また、上海地区は特に消費意欲が<sup>おうせい</sup>旺盛であり、

輸出産業の大きな落ち込みを内需が相当カバーしている。自動車の国内販売は1~9月ですでに960万台を越え、通年では1,200万台を突破することがいよいよ現実味を帯びてきた。

輸出が落ち込んだことで、一時期、当地の製造業は相当の打撃を受けたことは事実だが、国内需要に支えられて業績を回復しつつある。

### 4兆元の経済刺激策

政府の4兆元の経済刺激策の効果は確実に出てきている。特に上海では、不動産のバブルが再燃していると思われる程だ。日本でいう「億ション」がどんどん建設され、購入されている。また、その多くは、賃貸に回され運用されていると聞いている。

上海市内の道路建設もあちこちで進んでいる。また、黄河を横切る海底トンネルの建設や拡張工事も進んでいる。大都市間の高速道路網や鉄道網の整備もどんどん進んでいる。それでも中国ではまだ交通網が足りない状況が続いている。道路が整備されれば自動車が売れるなど、それだけ国内需要のポテンシャルは膨大だ。

### レベルの高い人材

今の上海ではかなり有能な人材が採用できる。無論、給与レベルも高いが、実力も備わった人材が豊富におり、日本人駐在員もうかうかしてられない状況だ。中国は一人っ子政策の結果、子供の高学歴化が進んでいる。夫婦共働きが常識で、可処分所得も高く、それを子供の教育費につぎ込んでいる。中国は学歴社会であり、競争も激しく、よく勉強する学生も多い。中国の優秀な人材をいかに活用していくかがわれわれ海外企業の大きな課題だ。

### これからの有望分野

商社のこれからの有望分野は、やはり川下の流通分野であろう。旺盛な国内の消費をビジネスチャンスに変えねばならない。この分野での日本商社の動きが活発化している。

(2009年10月20日 上海にて

聞き手：広報グループ部長 西川裕治)

